

NEHKI TENGLA?



HOT NEWS from KANAZAWA KHUMBU ASSOCIATION - No.1/1999/AUTUMN

金沢クンプ協会の概要 《設立趣意書》

●「ヒマラヤ・シェルパ・ミュージアム」支援のために

1. 設立背景及び理念

世界最高峰エヴェレストはじめ、数多くの高峰・名峰をいただくネパール・クンプ地方は、山岳ガイドで知られる高地民族〈シェルパ〉の故郷であり、その雄大な自然景観から、「サガルマータ国立公園」として、世界遺産に登録されている地域でもあります。

つい20年ほど前までは、一部の遠征隊等を除いて、外国人がめったに足を踏み入れることのなかったこの地域も、現在では、登山やトレッキングを楽しむために、毎年、2万人近い人が世界中から訪れるようになっています。山を愛する人にとって、クンプは、いわば聖地にも似た“憧れの地”と言えるかもしれません。

今般、そのクンプの中核、クムジュンとクンデ両村において、シェルパ族固有の文化やヒマラヤ登山へのかかわりを含めた彼ら独自の歴史を、後世に永く語り継ぐことを目的に、「ヒマラヤ・シェルパ・ミュージアム委員会」(Himalaya Sherpa Museum Committee)；政府登録No.77が地域の幅広い賛同を得て発足し、新たに、拠点施設の建設を目指すことになりました。電力供給の開始(1994)や旅行者急増への対応により、クンプのシェルパ社会が、文



↑ミュージアム建設予定地付近より、遠くアマ・ダブラム(中央奥/6856m)を望む

化的・構造的に、大きな質的变化を迎えようとしている今、自らが拠って立つ、民族の伝統的基盤(アイデンティティ)に目を向けたこの試みは、まさに時宜にかなったものであると考えます。

基より、この計画には、多方面へのきめ細かな配慮が求められています。クンプが置かれている厳しい自然環境やその地球レベルの意義、更には、トレッキングを中心とした、観光産業抜きには語られぬ地域の現状など、これらの諸要素を踏まえて本計画が持つ意義を考えた時、その新施設は、単に〈博物館〉としての機能を果たせば事足り、と言える

ものではありません。それは、21世紀に伝えるべきクンプの姿を、共生と共有の理念の下で、真摯に追い求めたものでなければならぬでしょう。

私たち「金沢クンプ協会」は、現地からの正式な支援要請に応じて1997年の夏に設立され、今日まで、各界・各層との対話や現地での基礎調査を積み重ね、相互理解の深まりと計画遂行への基盤作りに努めてまいりました。そして、この度、現地組織の設立趣旨・規約に沿った形で計画の全体像を再構成、大略、以下のような構想のもとで、博物館の創設を軸とした、本格的な支援活動に

あたりたいと考えます。

2. 基本構想

まず、計画推進に際しては、施設完成後の円滑な運営・管理を考えるうえでも、近隣のナムチェ・バザール、シャンボチェなどの将来にわたる緊密な連携・協力体制が不可欠であるとの認識から、本計画を同エリア全体のより一層の活性化と振興に寄与しうるものにしたと考えています。それゆえ、私たちは、博物館の機能や活動を柔軟かつ複合的に捉え、日々の生活により密着した形での運用を提案します。

すなわち、私たちが目指す新施設は、〈博物館〉本来の機能である民俗文化財や歴史及び自然科学資料の収集・保存・展示、それに伴う研究及び教育・普及活動を担うだけでな

く、地域の人たちの暮らしを通して生まれてくる、さまざまな分野における、ごく自然な知的欲求や素朴な好奇心に対しても、適切に応えうる拠点としての役割を担えるようにしたいと考えています。

また、同地域一帯が、稀有の自然景観と特徴的で豊かな植生を有する広大な「世界遺産」の、限られた一部でありながら、一つの完結した周遊ゾーンとして、今後、旅行者に定着しうると考え、自然・文化面での新たな〈ビュー・ポイント〉を整備するとともに、住民の中にトレッキング・ガイドを兼ねた自然解説員の養成を目指し、環境保全と自然保護に向けた活動にも取り組んでいきたいと思っています。

そうした中で、将来的には、博物館が、地域の人たちの文化的拠点と

して浸透し、一方、旅行者にとっては、幅広くクンプの自然・文化に接することができ、加えて、気軽に地域との交流や相互理解を図れる場として、広く受け入れられるようになっていくことを願ってやみません。

皆様の、広汎かつ末永いご支援、ご理解をお願い申し上げます。

3. 「金沢クンプ協会」の活動概要

- ①建設支援のための募金及び広報活動
- ②ミュージアムの運営・管理に関わる助言と提案
- ③現地スタッフ養成への支援
- ④学術調査への支援と助成
- ⑤その他、設立の趣旨に沿った支援・交流活動全般



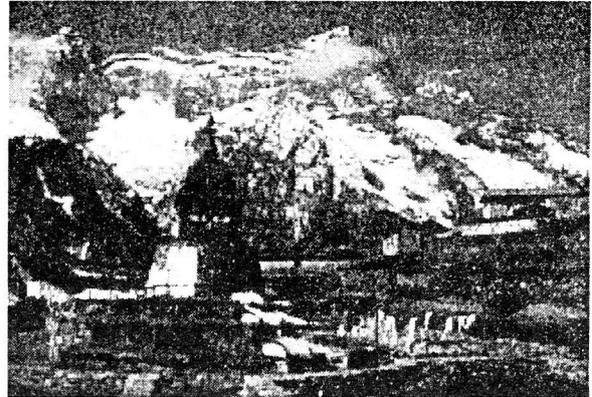
活動経過報告 — 計画誕生から今日に至る経緯 —

- | | |
|--|--|
| <p>1995.3 ●現地側、日本側の双方から「ミュージアム」創設の提案が出され、各々が、具体的な課題や問題点などの検討に入る。建設予定地の選定作業を開始。</p> <p>1995.12 ●日本側から現地側に「設立趣意書」の作成及び運営母体となる組織作りを要請。</p> <p>1996.2 ●現地で第一回のミーティング。名称を「Himalaya Sherpa Museum(HSM)」とし、その性格や機能など、基本的な構想について話し合う。建設候補地を確認。</p> <p>1996.3 ●「HSMコミッティー」の行政当局への登録手続きを現地側に要請。</p> <p>1996.4 ●スタッフ養成を目的に、クンプ出身の学生3名に奨学金提供。2名は専門学校でコンピュータ技能を修得、1名は、現在、学校の臨時職員として勤務中。</p> <p>1996.8 ●現地側から、建築用資材に関する提案が出される。(現地では、板材等の調達に容易でない為、機会があれば随時、購入していきたい旨の意向が示される。)</p> <p>1996.11 ●現地組織の登録申請が、所轄のソル・クンプ県において、認可・受理される。登録番号77：正式名称「Himalaya Sherpa Museum Committee, Khumjung」</p> <p>1997.1 ●「登録証明書」及び「設立規約」の公式英訳文(ネパール法務省発行)が届く。
●現地側より、クンプ寄りの建設候補地を、クムジュン側に近い場所へ変更したい旨の意向が示される。</p> <p>1997.2-3 ●前記「規約」の細部及び設立趣旨についての確認作業を行うと共に、建設予定地に関する基礎調査ならびに建築事情などについての調査を実施。
●正式登録に基づく現地コミッティーの再編成、人選作業を開始。
●民具等に関する資料リスト作成を要請。</p> <p>1997.5 ●予定地の測量調査を実施。
●ネパールで全国的な地方選挙。行政単位でもある各VDC(Village Development Committee)の村長、代議員選挙が行われる。</p> | <p>1997.6 ●地域の主要祭礼「Dumjil」(年一回)期間中の会合において、現地組織が正式に発足。</p> <p>1997.7 ●現地側からの正式な支援要請文(アピール・メッセージ)が届く。</p> <p>1997.8 ●「金沢クンプ協会」設立。</p> <p>1997.11 ●設立記念コンサート(11.4/教育会館)。</p> <p>1998.1 ●「ネパール観光年/VISIT NEPAL '98」&シェルバ暦「寅年」スタート。(森林資源保全の観点から、木材調達に関する規制が厳しくなると共に、寅年が忌むべき年でもあることから、建設作業などの本年中の開始は避けてほしいとの要望が現地側から伝えられる。)</p> <p>1998.2 ●現地側計画案に対する日本側の計画概要(試案)を提示。(保存・展示するだけになりがちな従来型の博物館でなく、生活に密着した、住民参加型の「生きた博物館」を提案、現地側の理解を求めつつ、計画概要の地域への浸透に努める。)
●文化財及び民具に関する基礎調査と資料リストの作成を再度要請。(→青年層を中心に作業グループを結成)
●シェルバ自身が自らの文化、歴史を書き残し、伝えていくことの大切さを訴える趣旨から、伝承や説話などの記録を残すよう提案。(現地の社会科教師 Pasang Sherpa を中心に執筆、翻訳などの編集作業開始。)</p> <p>1998.4 ●現地側作成の資料リスト(写真付き)が届く。</p> <p>1998.5 ●資料リストに基づき、収集方法・展示構成案などの検討を開始。</p> <p>1998.11 ●「金沢クンプ協会」総会…基本方針・活動案等を承認。</p> <p>1999.2 ●現地調査(民具・食生活他)、収集開始に向けて仮収蔵場所の設置などを検討。</p> <p>1999.4 ●かねて申請中(2回線)の電話回線(1回線)の取得が決定。現地の民家を連絡拠点・仮事務所として、FAX機能付き電話機を設置。下旬より使用開始。</p> |
|--|--|

NEPAL **クンブ**地方について…

シェルパ族の故郷として知られるクンブ (Khumbu) は、インド・中国という二つの大国に挟まれた小国ネパールの北東部、ヒマラヤ山脈南面の山岳地帯に位置し、標高2700m前後の山域から、世界最高峰エヴェレストはじめ、ローツェ、チョー・オユー、アマダブラム等々、数々の巨峰、名峰群を間近にいただく標高5000m近い地域にかけて、いくつかの村落が散在、クムジュン、ナムチエ、チャウリカルカという3つのVDC (Village Development Committee; 行政区域) で構成されている。その植生は、幾種ものシャクナゲ (ネパールの国花アルポレウムはその一種) や松、トショウ (ネズ種の常緑高木) など変化に富み、動物も、ヤクやナク、ジャコウシカ、雪ヒョウ、国鳥にもなっているダフエに代表される野生の鳥類など多種多様なものが生息している。

クンブの住民、とりわけ、そのほとんどを占めるシェルパ族は、1960年代以降、山岳ガイドとして広く世界に知られ、固有の言語「シェルパ語」を持っている。ひ



と昔前の彼らは、ネパール・チベット間の塩や肉、毛皮などの交易に従事していたが、地域の主要農産物は伝統的にジャガイモやソバなどであり、一年の半分をその栽培作業に費やし、残りの半年間は、米や日用品の購入の為に低山域へ下り、遠くはインドとの国境辺りまで出かけることすらよくあったといわれている。

冬から春にかけての間は、もちろん雪は降るものの、総じて、まだ乾期の内にあり、モンスーンの季節も雨がちではあってもその降雨量自体は低地域に比べるとさほど多いものではない。気温はおおよそ摂氏プラス20度からマイナス20度の範囲にある。また、強い風が吹く期間は2月から始まって4月の初め頃まで続くのが通例だが、時にはそれが11月から1月にかけてという年があったりもする。



クンブ・シェルパの宗教

クンブやそれ以外の土地で暮らすシェルパ族は皆仏教徒 (チベット仏教) であり、いずれの祭礼や儀式もブツダの教えに基づいて執り行われている。これとは別に、ソル・クンブ、とりわけクンブに住むシェルパは、クンピラ (Khumbu Yula) 山を“聖なる山”、「神」として崇めているが、<Khumbu>はソル・クンブ地方の上方部を意味し、<Yula>は村の神を意味している。



→ 経文がしるされた石
「マニ石」

言語と文字

シェルパ族には特に固有の「文字」というものはなく、それが必要な際はチベット文字を使っており、その意味でいうと、シェルパ語それ自体は<会話言語>といえるが、一般的に古い世代の人たちは日常シェルパ語を話すものの、一方で、近代教育を受けた若い世代、現在の子供たちは、他の地域に住む人たちとのコミュニケーションが容易なこともあって通常「ネパール語」を話すことが多い。



→ シェルパ族の子供



シェルパの生活民具 ●その①

■Dongmu

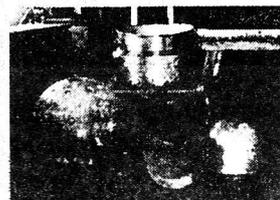
チベット系のシェルパ族には欠かせぬ飲み物、バター茶の製造器「Dongmu」(木製/写真①)。材質にもよるが、1セットは5000ルピー前後(約1万円)。ただ、手入れの煩雑さから、最近ではその使用も控えがち。電力の供給に伴い、電気ミキサーを代用する家庭が目につく。価格もDongmuの約半分と手頃なうえに、手入れも容易な点がこうした傾向に拍車をかけているようだ。



①Dongmu

■ロキシー(地酒)蒸留セット

製造器は、〈Pungshe〉〈Nangkim〉〈Jama〉〈Bata〉という4つのパートで構成されている(写真②)。ロキシーの原料は主にジャガイモを使用し、アルコール度は高く40~50度前後のものが多い。しかし、日常的には雑穀類から作られる発酵酒の一種である「チャン」、「トンパ」が多く飲まれている。



②Bata(上)、下段左からJama、Nangkim、Pungshe

■Sortok&Lapsing

皿状のものが「Sortok」(木製/写真③)、四角の小さなものが「Lapsing」(石製/写真④)。いわゆる「おろし器」ともいうべきもので、ジャガイモを材料にしたパンケーキやモチ(Rhieldhok)を作る際などに用いる。最近では、金属片に釘などで穴を開け、これを小さな板と組み合わせて作った手製の“おろしがね”も見られる。



③Sortok



④Lapsing

from EDITORS

先日、現地の Pasang Sherpa から送られてきたファックスの末尾に、次の一節が添えてありました。<... to keep fresh your hope and passion. We will send our progress. >

温厚で、常に穏やか笑みを浮かべておられるバサン先生から、PASSION(情熱)という、力強い響きの言葉を送られ、心から励まされる思いでした。この計画を支えているのが、村の人たちをも含めた、ひとりひとりの夢にかけける強い想いであり、情熱であることを、改めて、実感させられました。

会報タイトル NEHKI TENGLA (ネキ・テンラ)は、シェルパ語をアルファベット表記にしたもので、さしずめ“さらなる高みへ——”といった意味になります。今後、当会報が、HSM計画の軌跡を長く記し、多くの方々と、クンプの人たちとの架け橋となっていければと願っています。なお、投稿、寄稿は大歓迎ですので、ご意見、ご感想などありましたら是非お寄せください。(玄川)

編集・発行

金沢クンプ協会
KANAZAWA KHUMBU ASSOCIATION

〒920-0863 金沢市玉川町11-6 井口ハイツ501号(玄田方)
TEL&FAX 076-223-4543/E-mail:fwga5256mb.infoweb.ne.jp
郵便振替 00780-5-10775「金沢クンプ協会」

▼編集広報部

〒921-8802 石川県石川郡野々市町押野3-157-105(崎川方)
TEL&FAX 076-248-7619

INFORMATION

《第1回公開セミナー》

ヒマラヤの人・自然・文化

10月23日(土) pm1:30~4:00

石川県国際交流センター(リファーレ)/4F大研修室

プログラム

- ① 記録映画「カンチェンジュンガ縦走」上映(VTR版)
※日本山岳会登山隊の記録1984年/製作・日本テレビ/40分
- ② 講演:「ヒマラヤの民・シェルパ族」(仮題)
講師:鹿野勝彦氏
※金沢大学文学部教授・文化人類学/日本山岳会登山隊(1984)隊長

【入場無料】

主催●金沢クンプ協会

●当日は山岳写真展示、ネパールの手工芸品即売等も予定しております。

OB会会計報告

(平成11年7月1日～平成11年12月31日)

〈収入の部〉

OB会費納入	764,360
預金利息	197
計	764,557

〈支出の部〉

OB会報(やまざと) No.11 印刷費	201,600
〃 郵送料	133,920
現役小屋作業補助	50,000
秋の小屋酒場食費	21,531
〃 資材等	5,334
〃 写真代	5,373
OB・現役3年生懇親会	65,310
通信費	15,510
文具費その他	13,867
計	512,445

〈差引剰余金〉

前回(11.6.30現在)繰越金	1,835,237
収入の部	764,557
支出の部	512,445
差引合計	2,087,349

2年

杉村 明慶 (教一人環 98-192) O あり
 金沢市三ツ口新町1-15-5 錦寮 261-3458
 大阪府大阪市都島区都島北道1-10-6 06-921-1165

清水 健作 (理一物 98-45) A あり
 金沢市材木町13-29-202 262-4263
 岐阜県関市明生町2-2-22 0575-23-2975

1年

日野 鋼貴 (文一人間 99-044) B あり
 金沢市宝町3-3-37 261-5118
 埼玉県本庄市北堀450-29 0495-22-1749

角田 幸久 (経 99-033) B あり
 金沢市旭町1-11-12-110 090-4757-3235
 長野県松本市城西1-6-1 0263-33-0652

河原 一美 (教一教養 99-037) O あり
 富山県西砺波群福岡町荒屋敷100 090-2830-4082
 同上 0766-64-4322

計 3年 6名
 2年 8名
 1年 10名
 合計 24名

'99 小屋作業報告

CL42期 石川 真心

本年度の小屋作業は、初期の計画においては高三郎登山道への道標の設置を目的としていたが、その話がひとまず延期となったことにより登山道及びベルクハイムの草刈りを行うこととした。今年は去年のようなひどい雨に降られると言ったようなことはなく、作業自体は比較的スムーズに行うことができた。しかしながら、登山道の草刈りにおいては、私が入り口付近から草を刈っていくよう指示したため山頂までたどり着けなかったことが残念である。近年、高三郎に登る機会が減っていることを考えるとなおさら悔やまれる。一方、ベルクハイムの方は来たときと比べると見紛う程綺麗にされており、キャンプ場も以前は道を挟んで両面にあったテント場が片面にやたらと広くなったがテント四張り張り得るようになっていた。ベルクハイムの方の指示に当たってくれた越前さんと坂本君に感謝したい。

本年度、草刈りのみを行ったことにより今後処理していくべき課題が残ってしまうこととなった。まず、道標の設置。本年度においては延期となったが、話がまとまり次第となると来年あたりに行われるのではないかと思われる。しかしながら、本年度の小屋作業後にベルクハイムを訪れた方、及び現役部員は知っている事と思うが床の痛み具合がひどく、今回の小屋作業中において何カ所か床を抜いてしまい、ほかにも今にも抜けそうな場所が数カ所ある。この床の方は、ベルクハイムを利用するにおい

て早急に補完しなければならぬ。

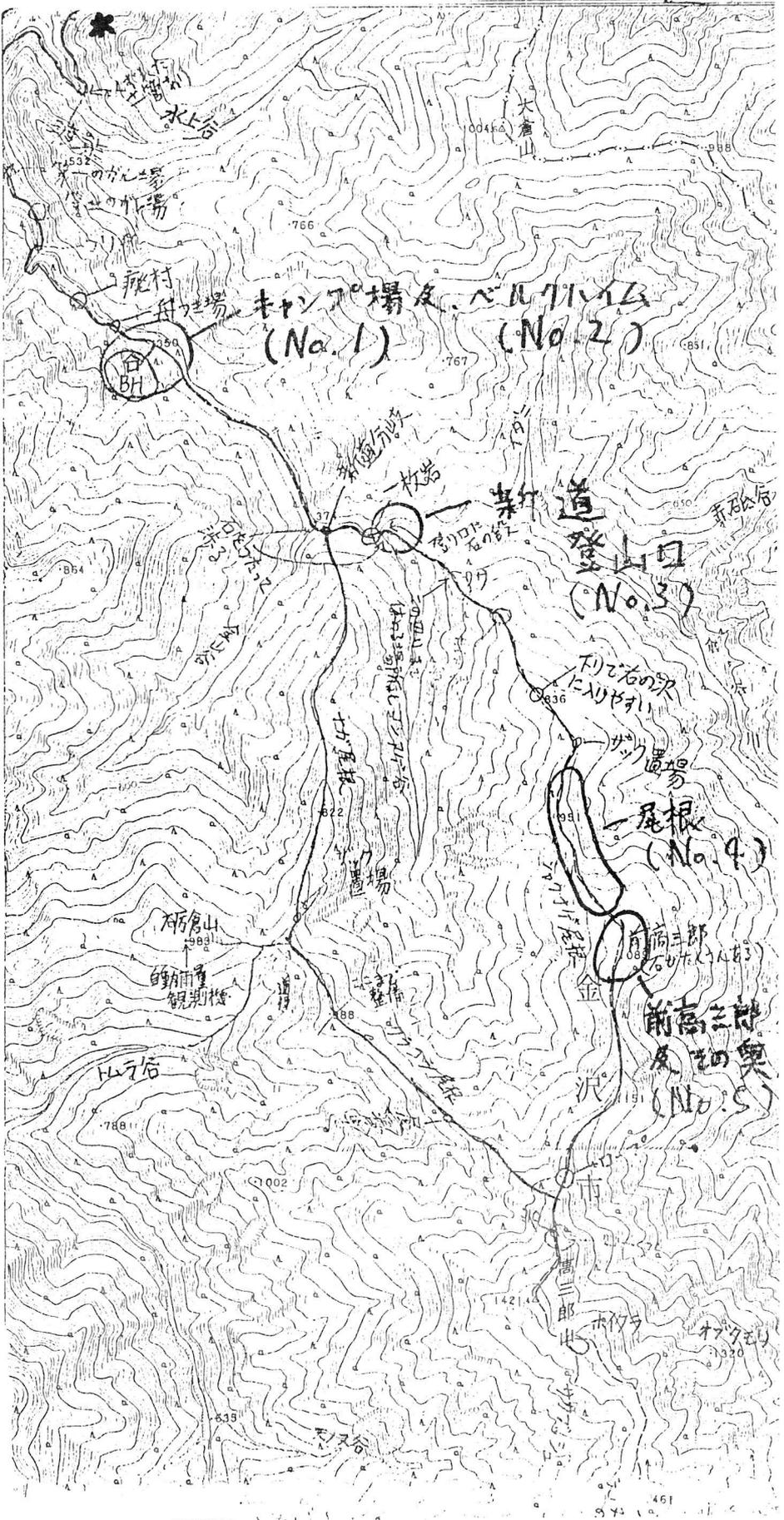
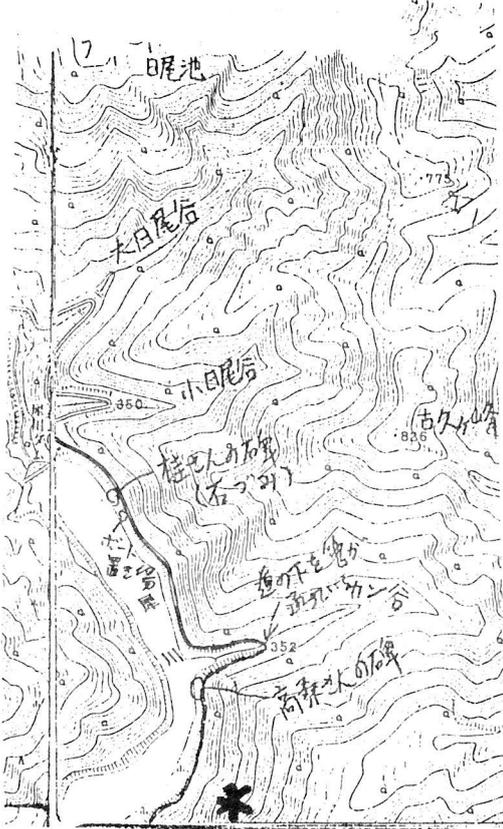
今後の小屋作業において、小屋の補修を行っていくのと平行して、今後どのように現役部員がベルクハイムを利用していくかが問題となる。以前は春の新トレ、秋の小屋作業と年二回来ていた高三郎も、ダム沿いの登山道の崩壊が進んだことにより新トレで一年に荷物を背負わせたまま登るのはいささか厳しいのではないかとも思われ、訪れるのは年に一回小屋作業の時のみとなってしまう。従って、現役部員に関しては一年に一回しか訪れることのない場所であり、そこを維持していくことに裂ける労力には限界がある。OBの方々がベルクハイムの維持に尽力されている事を含めても、ベルクハイム及び登山道の崩壊に対して馳ごっことなってしまうように思われる。

故に、現役部員のベルクハイムの利用の増加、それに伴うベルクハイム維持及び増設に関する現役部員の労力の増加が望まれ、その過程において現役部員とOBの親睦を図ることができればさらに望ましいと思う。今後、前述のようなことを視野に入れた行事計画について考えていかれることを願う。



小倉 奥野 角田 日野
加藤 杉村坂本 西 山本 谷村 三浦西脇
角谷 吉森 谷上 越前
清水 久原 志賀 矢内 阿納 河原 福村

報告用に、作業箇所を
電話で尋ねるも、どう
も話が噛み合わない。
「じゃあ地図に書いて
きて。」書き込みよく
してあって、うん、ち
ゃんと調べている。が、
やはり、旧道に新道と
記入してあった。そう
であって不思議ではな
のが、高三郎とKUWVの
関係……。



Winter Training

冬合宿の計画書が出てきましたので、お送りします。20日からの寒波と降雪のおかげ
ですっきりとラッセル(の練習)もできることでしょう。

[目的] 冬山の基礎技術の訓練と雪山の厳しさ、楽しさを知ること

[日程] 1999年12月26日(日)～28日(火) (2泊3日 予備1日 非常1日)

[メンバー]

Aパーティ

L 坂本一樹(工-土建3) sL(csL) 矢内佑一(工-物化3) 西脇幹雄(工-機械2)
谷上 望(文-人間2) 小倉 亮(法2) 吉森幸世(文-人間1) 西 大輔(工-人機1)
谷村一成(工-人機1) 角田幸久(経-1) 久原宗仁(文-史1)

Bパーティ

L 角谷 誠(工-土建3) sL 志賀寛人(工-土建2) cL 笹田竜之(文-史3)
阿納真弓(文-人間2) 加藤菜就(工-物化2) 日野鋼貴(文-人間1)
福村岳代(教-障害1) 山本資治(工-人機1) 石原 諭(経1) 河原一美(教-教養1)
+ 前田達男(法-顧問)

[連絡員] 越前聡子(文-人間 3) (264-0205) 伊藤純司(工-物化 3) (263-8353)

[目的] 本番で行くための下見。道の様子や1日目のテント場として使用する予定の

小屋の状態、2日目のテント場の様子などを見る。

[日程] 12月11日、12日(非常1日)

[行程] 1日目 金沢 == (車) == 平泉寺 ---- 中ノ平小屋 --- 法恩寺
山 ---- 伏拝 ---- テント場①

2日目 伏拝 ---- 経ヶ岳(往復) ---- 中ノ平小屋 ---- 平泉寺

[メンバー]

L 笹田竜之(文-史3) sL 矢内佑一(工-物化3) 角谷 誠(工-土建3)
坂本一樹(工-土建3) 志賀寛人(工-土建3)

[連絡員] 河村浩之(266-1283) 佐藤豪一郎(235-3137)

なお、冬合宿本番は 12月26～28日です。私も同行する予定です。

冬合宿行ってきました。20日からの寒波と降雪の上に新雪が積もり、三頭山を巻くあたりから膝上のラッセルとなりました。このため雪の初日のテント場は林道に出て、視界の広がる予備テント場の1ピッチ手前。翌日は出発が遅れたこともあり、おまけに快適な中ノ平小屋で昼近くとなり、そのままザックを置くことになりました。昼食後2時間程度雪上訓練。3日目は雪道に掘った「塹壕」道をつが足で一気に下山しました。

それにしても大所帯なのにラッセルが進まなかったのは、新雪（深雪）のせいばかりではありません。ラッセル慣れしていないため、ピッケル、ストックなど手に持つ道具が装備から抜けていました。ローテーションを早く回すようになったのも途中からでした。経験を傳承していくことの大切さを痛感しました。

なお、私もローテーションに加わりましたが、荷物が軽かったこととピッケルを持っていたこと、そして何よりも医王山輪かんのおかげで、時には2番手との間に距離を開けてラッセルを楽しんで来ました。

《当初計画》

[日程] 12月26日(日)～28日(火) (2泊3日 予備1日 非常1日)

[行程] 1日目 金沢 == (バス) == 平泉寺 ---- 三頭山 --- テント場(予①) --- 中ノ平小屋(テント場①)

2日目 中ノ平小屋 --- 法恩寺山 ---- 伏拝 ---- テント場② 北岳 --- 経ヶ岳(往復)

2日目 テント場② --- 伏拝 ---- 中ノ平小屋 ---- 平泉寺 == 勝山 +++ 福井 +++ 金沢

10月20日
現役3回生と
OB役員の
懇親会



笹田 志賀 石川 矢内 坂本
角谷 梅 鳥越 舟田 奥名

本日開催

金沢城フェスティバル'99

歴史が生きる、文化に触れる。

当日兼六園 無料開放!

入場無料

とき ◆ 平成11年11月3日 (文化の日)

会場 ◆ 金沢城址公園周辺 (沈床園他)

会場には駐車場がありません。お車のご来場はご遠慮下さい。



金沢城址で
歴史を学び
文化に触れる

特別展 金沢城

～いま・むかし・みらい展～

期間/平成11年11月3日(祝)～11月9日(火)
場所/金沢市文化ホール 時間/AM9:00～PM5:00

- ◆ 全国都市緑化いしかわフェアPR
- ◆ 城址整備により発掘された埋蔵文化財あれこれ
- ◆ 金沢城城郭模型
- ◆ 金沢城絵図 他

沈床園内(石川門下広場)

ミニステージイベント

- ◆ 琴「田村 加幸」 時間/1回目・AM11:00～ 2回目・PM1:20～ 3回目・PM2:30～
- ◆ しる笛「美音」 時間/1回目・AM11:25～ 2回目・PM1:00～
- ◆ 民謡「孝謙まじこ社中」 時間/1回目・AM11:40～ 2回目・PM3:00～
- ◆ 浅野太鼓「海燧」 時間/1回目・PM12:15～ 2回目・PM2:00～

金沢城大茶会(裏千家)

- ◆ 時間/AM10:00～PM3:00 ◆ 一席300円(菓子付)
- 本部テントでお茶席券を販売しております。

百万石ふるさと物産市

- ◆ 時間/AM10:00～PM4:00



お国自慢食べ歩きコーナー

- ◆ 時間/AM10:00～PM4:00

ふるまい酒 ◆ 時間/正午より

加賀藩ウォークラリー

各チェックポイントのキーワードを集めるとひとつの言葉になります。正解者にはすてきな賞品をプレゼント!

- ◆ 受付/本部(沈床園)
- ◆ 時間/AM10:00～PM4:00(受付はPM3:30まで)

Aロングコース
本部～白鳥路～石川県菓子文化会館～尾崎神社～尾山神社～金沢市文化ホール～三十間長屋～石川門～本部

Bショートコース
本部～石浦神社～金城豊沢～本多の森公園～県立歴史博物館～県立伝統産業工芸館～観光物産館～本部

主催/金沢城フェスティバル実行委員会(お問合せ/076-223-9204)・石川県・金沢市
協力/財団法人石川県民ふれあい公社 石川県酒造組合連合会 石川県経済産業協同組合連合会 石川県スキー場協会

● 注意
● このイベントは当日の天候状況により、中止・変更になることがあります。 ● 立入り禁止区域への進入はお断りします。
● 雨天では、決められた場所以外の開催・教養は出来ません。 ● 三十間長屋、石川門は重要文化財です。大切に。

歴史散歩

金沢城槽コース AM10:30～ ◆ 集合/石川橋
石川橋～三十間長屋～① 菱櫓 ② 橋爪門続櫓

ふるさとの歴史コース PM2:30～ ◆ 集合/石川橋
石川橋～石川門～三十間長屋～宮守坂～尾山神社
*2コースとも10分前に集合場所へお集り下さい。

「城を詠む」金沢城句会

あなたの作品を沈床園内の掲示板に公開。粋な作品をどんどん応募下さい。作品はラジオかなざわ「金沢もしもし探検隊」でも受け、作品を番組内でも紹介いたします。

- ◆ 応募方法/沈床園内本部の応募用紙でご応募下さい。
- ラジオ応募の場合は「金沢もしもし探検隊」に電話又はFAXでご応募下さい。
TEL (076) 257-7825 FAX (076) 257-7756
- ◆ 応募受付時間/沈床園会場・PM3:00まで ラジオ受付・PM4:00まで
- ◆ 審査発表/PM4:30よりラジオかなざわ(FM78.0)特別番組で審査発表いたします。優秀作品にはすてきな賞品をプレゼント!
- ◆ 審査員/石川県俳文学協会 常任理事(北國新聞文化センター 俳句講師) 小竹由岐子

石川橋上オープニング

浅野太鼓「海燧」 ■ 時間/AM10:00～
和太鼓で華やかに幕開け!

石川門特別公開

現在公開中 11月7日まで ■ 時間/AM10:00～PM4:00
ボランティアガイド「まいどさん」がご案内いたします。

スポレク体験コーナー

■ 会場/本多の森公園 ■ 時間/AM10:00～PM3:00
来年秋に開催される第13回全国スポーツレクリエーション祭「スポレク石川2000」を紹介しニュースポーツが体験できます。

※平成13年、全国都市緑化いしかわフェアが金沢城址公園などで開催されます。現在石川県ではこのイベントに合わせて公園内を整備中です。

白山に永久凍土?

雪や氷は水に溶け、とろろが昨秋、白山(二七〇二尺)の千蛇ヶ池では、池の中に万年雪(氷体)が沈んでいた。このほど、鳥取・米子で開かれた一九九九年日本雪氷学会全国大会でこんな発表が行われた。この万年雪は、国内では一部にしか確認されていない「永久凍土の可能性」も指摘されている。発表された研究成果を中心に、高山の水の世界をのぞいた。

(報道部・沢井秀和)

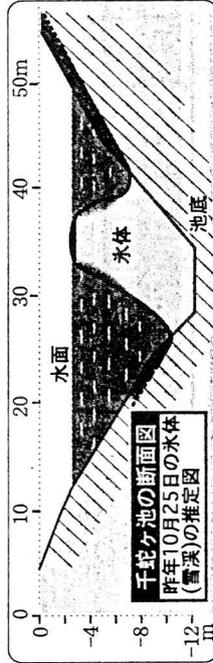
万年雪(多年生雪)を調べたのは、福井大の伊藤文雄文部技官(雪氷物理)、石川県林業試験場の矢田豊主任技師、中谷守吉郎雪の科学館(石川県加賀市)の神田健三館長。

昨年十月上旬に、伊藤さんが白山山頂に近く千蛇ヶ池(約二五七二尺)を訪れたところ、池の周囲や水面上に雪がなかった。伊藤さんは以前からの雪氷を調査してきたが、白山に唯

水に浮くはずの氷体 千蛇ヶ池中で発見

福井大、宇吉郎雪の科学館、石川県の3人調査

例年見られる千蛇ヶ池(1995年9月撮影)。池全体が万年雪で覆われている。昨年11月6日の千蛇ヶ池。水位が下がり、水中にあった氷体(雪氷)が水面に突き出た



一の万年雪である千蛇ヶ池の雪が溶えたのは、およそ三十五年ぶりという。池の表面を調べると、水中から小さな気泡が上がり、二平方センチメートルから三十センチメートル。池の端

水際にある泥を払ってみると、土の下から氷が現れた。表面上は雪が消えているが、池の中には、氷がかなりあるのではないかと、そんな推定が浮かんできた。

三人はこの異例と言え、る状態を解明するため、昨年十月上旬と十一月初旬に現地に向かった。

十月上旬には、池の表面にはほぼ全面に氷が張っていたが、ところどころに氷が張っていない穴があった。池の周りの少し高い位置から穴の内部分をのぞいてみると、浅いところには薄茶色の平たんな面があり、周りは淡い水色を切り立つように縁取りしてみた。それ以外の場所は深い青緑だった。薄茶色の平たんな面は、氷の上に土砂がわずかに載った部分で、淡い水色は氷体のがけの部分、深い青緑は水深の深い部分と判断された。これらから池の中には、平たん面どけの部分からなる大きな氷体があると推測はされた。

また、池の岸の砂を少し取り除くと、その下から固い氷が現れたほか、斜面にも氷の層が確認され、周辺にある土砂の下に、氷がかなりの幅間であることが推定された。

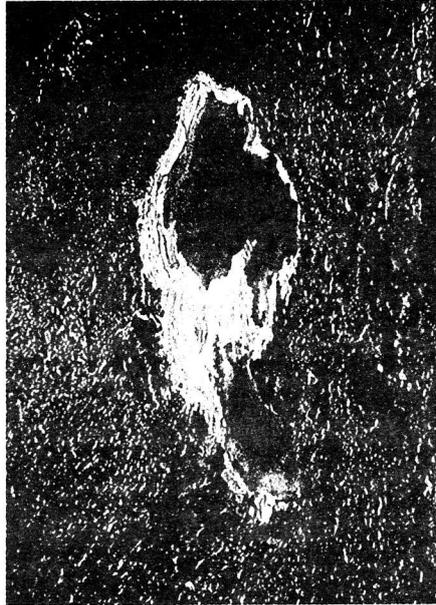
さらに昨年十一月六日の調査では、水位が下がり、水中にあった氷体(雪氷)が水面に突き出してきた。

一連の調査で、池の底における構造が初めて明らかになり、十月上旬現在の池の底にも氷の存在が推定された。雪氷は水に浮くはずだが、千蛇ヶ池の氷体は沈んでいた。伊藤さんらは、氷体が浮上しないのは、池の底にある岩盤層と一体化しているためと考察。そして、底層の状態を「永久凍土」と言えるかどうかの検討を進めている。

雪氷学協会によると、永久凍土とは、少なくとも連続した回の冬その間の一夏をわたる期間より長く零度以下の温度を保つ土、または氷になっている状態。永久凍土は、シベリアなど地球の陸地における一四割を占めるが、日本では富士山、大雪山で確認されているとされている。

しかし、立山連峰の内蔵助雪にも永久凍土が存在している可能性が出てきている。今年の学会で、国土地理院と東京理科大学のグループが調査した底層部分の気温変化や地盤の電気探査による調査結果を基にして、永久凍土が存在する可能性を報告している。

最近の異常気象は、科学者にとって、隠されていた事実をさらす好機でもあるようだ。先験的な雪の研究で知られる故・中谷守吉郎の生誕百周年となる来年には、出身地の加賀市で記念事業が行われ、日本雪氷学会も開催される。研究の深まりを期待したい。



各期代表連絡員の皆様には、以下の区分で、同期の状況をお知らせしています。

- A・・・イエローカード同封。次号より発送ストップ。
- B・・・今回から発送ストップ。
- C・・・もう発送ストップになっている
- D・・・発送復活者。
- E・・・納入済につき発送。 人数表示。

1-37期までの集計は、A144 B26 C64 D1 E226

38期からは、順にA対象に繰りあがっての督促となり

A+D+E (370)+38-40期 (31)+現役 (43)+&=460部・発注数

事務軽減の為に一括納入をお願いしている訳ですが、5年の間にばらつく為に、督促を兼ねて上記のような区分のチェックを必要としてしまいます。この区分に、振込票を同封するしないのチェックも混じり、あまりのややこしさを為、封入作業を人にも頼めない有様です。

これら諸々のトラブルは、つきつめれば、「入会意志の確認」でスタートしていないに行き着いてしまいます。そして「入会意志」とは、「これまで」ではなく、「これから」についての意志表明であるべきと思います。

またも長くなってしまいました。次期総会までに、皆様のご意見を伺えれば幸いです。

OB会報「やまざと」12号

発行日 平成12年1月 (' 9 9 冬号)
発行者 奥名 正啓
編集責任者 舟田 節子
印刷 プリントショップ多田

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

事務局 ☎920-0911 金沢市橋場町10-49

☎076-222-9288 (舟田 節子)

E-mail settyan-f@muc.biglobe.ne.jp

URL : www02.u-page.so-net.ne.jp/pa2/ma-okuna/kuwv/

奥名 会長 E-mail ma-okuna@pa2.so-net.ne.jp

名倉 名簿担当 E-mail nagura@wnk.njk.co.jp